



感動的な卒業式でした



3月13日。106名の先輩が詫間中学校を巣立っていきました。先輩の呼名に対する「はい」という返事、心のコもった歌。楽しいこと、嬉しいこと、苦しいこと、悲しいこと、それらを乗り越えて、たくましく成長した先輩の姿がありました。卒業式の先輩達は「カッコよく」なかったですか？

1, 2年生の態度も立派でした。来賓の方からも、みなさんの態度や歌がすばらしかったとお褒めのことばをいただきました。準備・片付けも、ありがとうございました。詫間中学校の生徒と職員382名で創り上げた感動的な卒業式でした。2年生のみなさん、362日後には、みなさんがあの場所に立つのです。

「ありがとう、大好きだよ」

平成23年3月11日の東日本大震災から4年たちました。今年の追悼式の宮城県遺族代表、菅原彩加さん（宮城県石巻市大川地区出身）は、中学校の卒業式の終わったその日に震災にあいました。

あの日、中学の卒業式が終わり家に帰ると大きな地震が起き、地鳴りのような音と共に津波が一瞬にして私たち家族5人をのみ込みました。

しばらく流された後、私は運良く瓦礫（がれき）の山の上に流れ着きました。その時、足下から私の名前を呼ぶ声が聞こえ、かき分けて見てみると釘や木が刺さり足は折れ変わり果てた母の姿がありました。右足が挟まって抜けず、瓦礫をよけようと頑張りましたが私一人にはどうにもならないほどの重さ、大きさでした。母のことを助けたいけれど、ここに居たら私も流されて死んでしまう。「行かないで」という母に私は「ありがとう、大好きだよ」と伝え、近くにあった小学校へと泳いで渡り、一夜を明かしました。

そんな体験から今日で4年。

あつという間で、そしてとても長い4年間でした。家族を思って泣いた日は数えきれないほどあったし、15歳だった私には受け入れられないような悲しみがたくさんありました。全てが、今もまだ夢の様です。しかし私は震災後、たくさんの「諦めない、人々の姿」を見てきました。震災で甚大な被害を受けたのにもかかわらず、東北にはたくさんの人々の笑顔があります。「皆でがんばっぺな」と声を掛け合い復興へ向かって頑張る人たちがいます。日本中、世界中から東北復興のために助けの手を差し伸べてくださる人たちがいます。そんなふるさと東北の人々の姿を見ていると「私も震災に負けてないで頑張らなきゃ」という気持ちにいつもなることが出来ます。

震災で失った物はもう戻ってくることはありません。被災した方々の心から震災の悲しみが消えることも無いと思います。しかしながらこれから得ていく物は自分の行動や気持ち次第でいくらにでも増やしていける物だと私は思います。前向きに頑張る生きていくことこそが、亡くなった家族への恩返しだと思い、震災で失った物と同じくらいのを私の人生を通して得ていけるように、しっかり前を向いて生きていきたいと思っています。

最後に、東日本大震災に伴い被災地にたくさんの支援をしてくださった皆様、本当にどうもありがとうございました。また、お亡くなりになったたくさんの方々にご冥福をお祈りし追悼の言葉とさせていただきます。

【朝日新聞社】